

ファッション
One Point
アドバイス

夏のビーチバッグの お手入れ

汚れることを気にせず、海遊びやピクニックにも気軽に使えるのが夏のビーチバッグです。

人気が出そうな素材は、透明感のあるナイロンやポリエステル系の生地に、大柄の花や果物やアニマル柄が人気です。プリントはもちろんのこと、刺繍やアップリケをしたものなどかわいらしさを表現した若者向けが中心ですが、夏ですから、ミセスが持っても、ぜんぜんおかしくありませんから、ぜひ、ミセスの方も挑戦してみてください。



また、例年流行る綿や麻やストローといった夏を感じさせる素材もたくさん出回ります。清涼感を感じさせる水玉や今年流行りのストライプは一押しでしょう。持ち手に籐や竹を使って、カジュアルだけでなく、通勤バッグにも使えそうなものもあります。

お手入れ方法では、特に持ち手の部分だけは、乾いた布で軽く乾拭きしながら使しましょう。ひと夏、使い終えたら、軽く陰干しして、柔らかいブラシでホコリを取り、ビニール袋などの密閉された袋に乾燥剤と共にに入れて保管しましょう。型くずれしないように、バッグの中に新聞紙等で詰め物をして、寝かさず、立て置きしてしまうか、ひも付きビニール袋に入れて吊り下げて保管しましょう。

絵画の中の洗濯風景

ひのし 火熨斗でアイロン掛け



李氏朝鮮（りしちょうせん）1886年

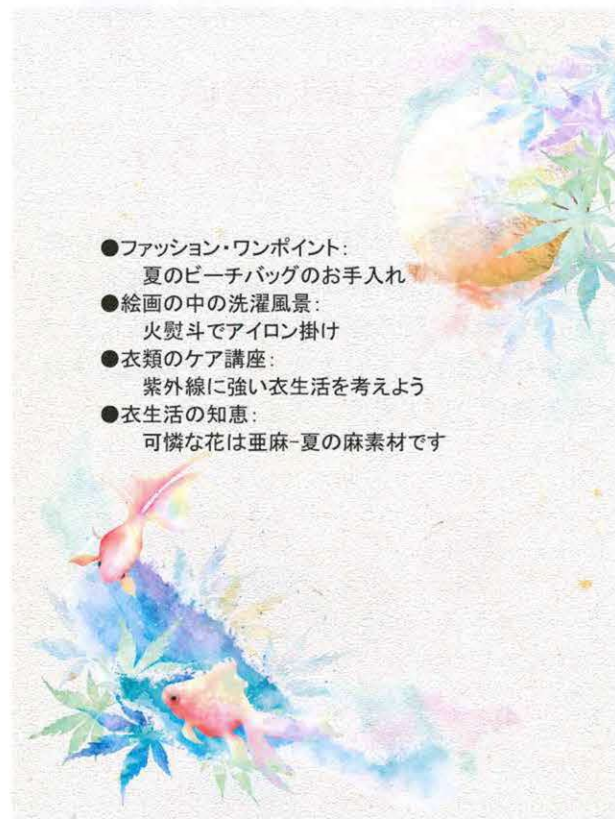
朝鮮半島の李朝時代末期頃に描かれた生活風景です。伝統的な服を着た2人の女性が、長い柄の先の炭で満たされた鉄の皿を使って布にアイロンをかけています。左には3本足のスタンドがあり、その手前には、バスケットに入った布と仕上げられた布がきれいにたたまれています。この道具は、火熨斗（ひのし）といわれるもので、西洋式のアイロンが普及するまで日本の一般家庭でも使われていました。



暮らし応援ニューズレター

HomeDry News

ホームドライニュース No. 104



- ファッション・ワンポイント:
夏のビーチバッグのお手入れ
- 絵画の中の洗濯風景:
火熨斗でアイロン掛け
- 衣類のケア講座:
紫外線に強い衣生活を考えよう
- 衣生活の知恵:
可憐な花は亜麻-夏の麻素材です

まごころクリーニング
ホームドライ ホームドライ



衣類のケア講座

紫外線に強い衣生活を考えよう！

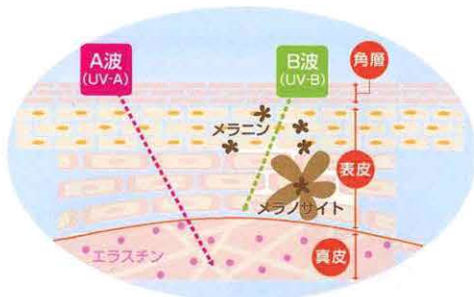
年々強烈な暑さが増してきています。強い日差しに含まれる紫外線は、皮膚に悪影響を与えます。衣類は、紫外線の害を防ぐ、お肌にとって大切な味方でもあります。そこで衣類の素材と紫外線について考えてみましょう。



◎ポリエステルなどの化学繊維は紫外線カット率が高い

資生堂リサーチセンターが、繊維素材の紫外線カット率を調べたデータがあります。これに

よると、綿 68%、絹 84%、麻 56%、ポリエステル 90%、レーヨン 96%となっており、天然繊維では絹が最も高く、化学繊維はそれ以上に高いカット率となっています。ノースリーブや水着の時は、ポリエステルの色柄物のショールを肩にかけて良いでしょう。また、最近では、UVカット機能のある生地を使用した衣類も開発されています。



◎染料や加工も紫外線でダメージを受けます

夏はトロピカルカラーの鮮やかな色彩のプリント柄が映えます。しかし、紫外線で染料が分解されてしまいますので、陽の当たる部分は、色あせてしまうことになります。



襟を返すと日焼けの跡がくっきり(ハイコントラスト処理)



可憐な花は亜麻 夏の麻素材です



夏の爽やかな麻の生地、それは青い可憐な花を咲かせる亜麻（アマ）の茎の繊維からつくられています。

亜麻は英語ではリネン（linen）ですがシャツやテーブルクロスの意味もあります。フランス語ではラン（lin）でランジェリーの語源となっています。また、ドビュッシーの名曲『亜麻色の髪の乙女』などでも知られています。亜麻色とは、亜麻繊維を漂白する前の自然な黄色味をおびた薄茶色のこと。

衣料品に表示されている「麻」は、国の規程で亜麻と苧麻（チョマ）という2種類の植物に限られています。亜麻は北海道やヨーロッパなど寒冷地の植物で、苧麻はカラムシとも呼ばれ日本や東アジアの温暖な地域で栽培されています。